



トアソソ隊って言ってるじゃあないか



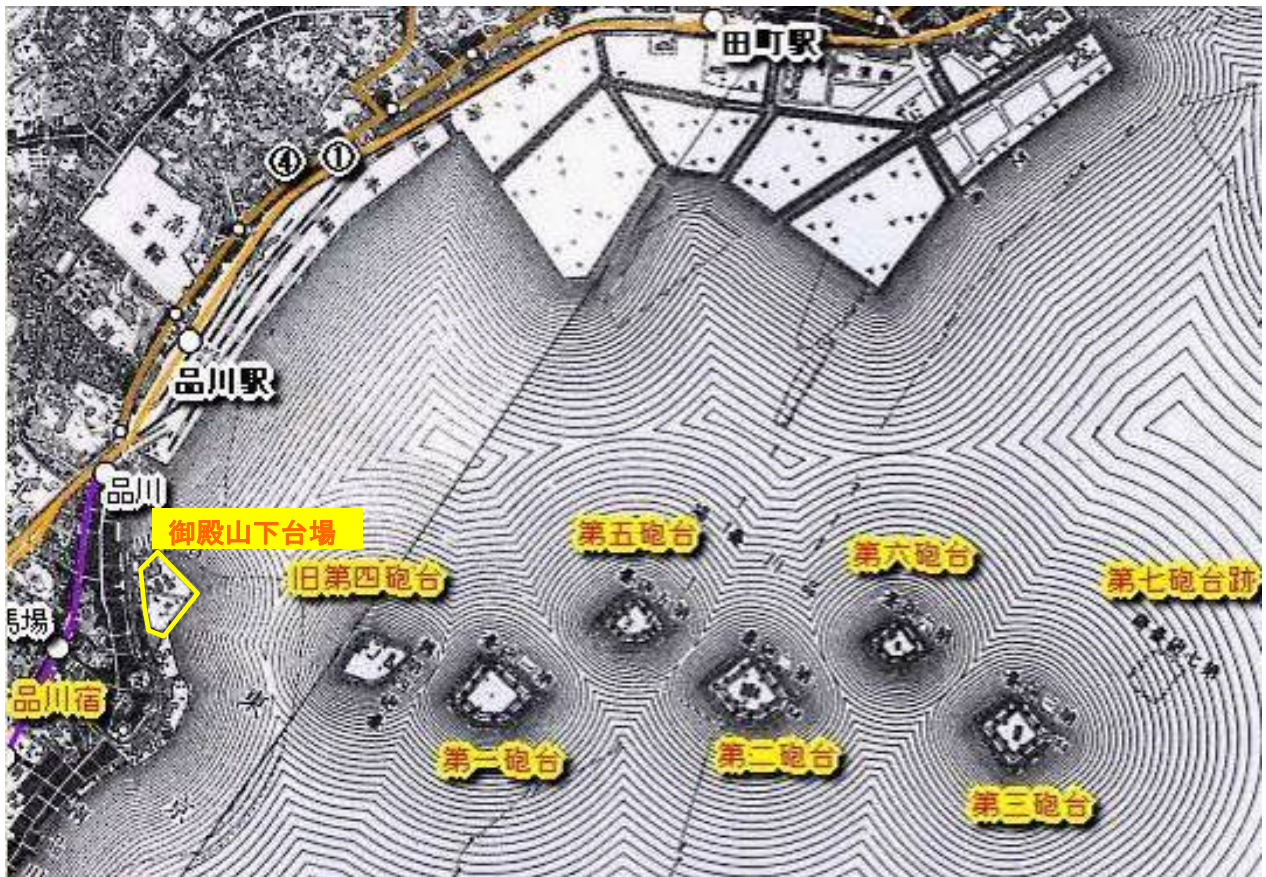
第三お台場編

by うさお

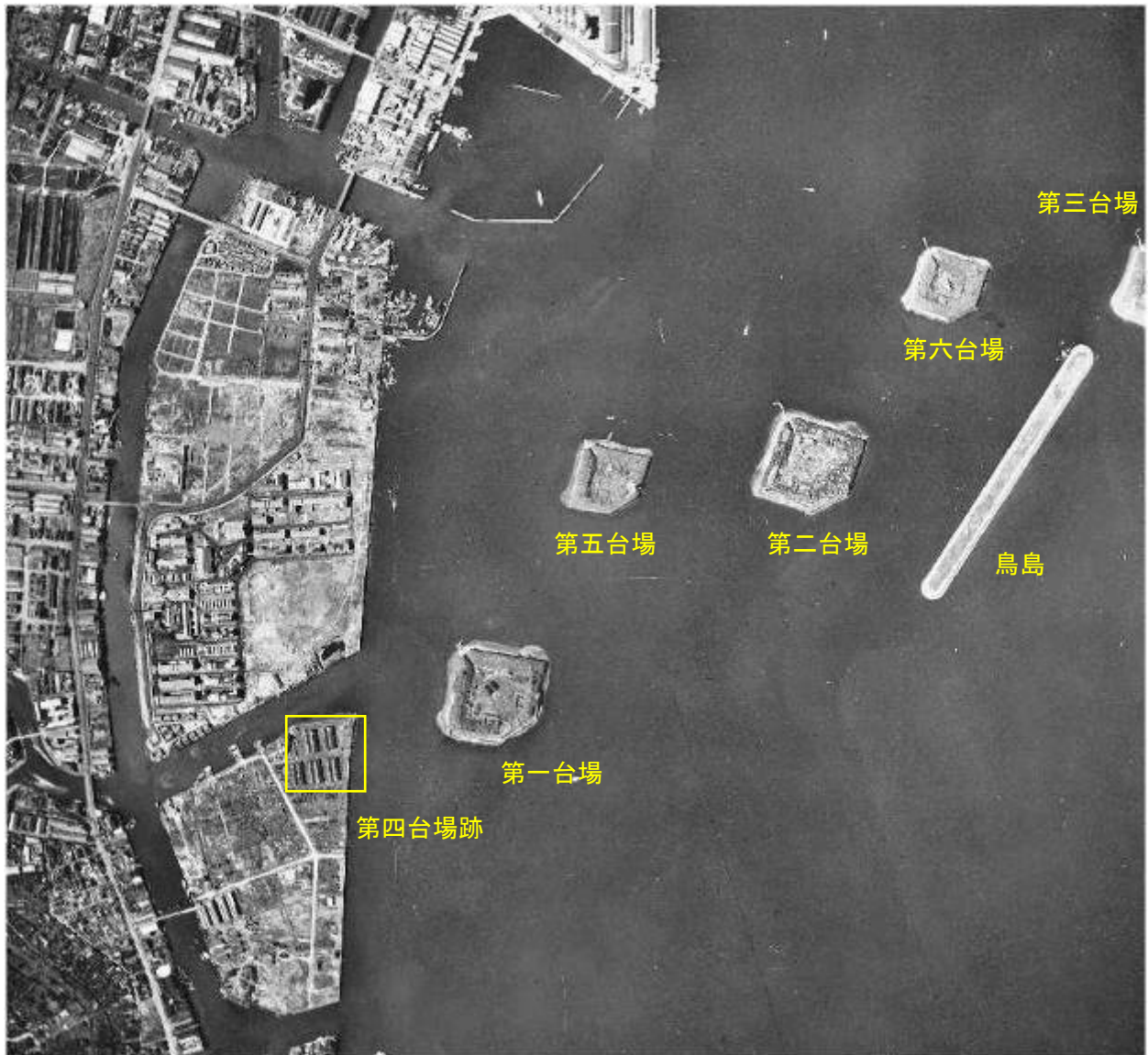
今回は第三お台場跡の報告であります。(前谷惟光のロボット三等兵のようだね!) 軍隊には三等兵なる階級は存在しないよ。二等兵までだ。二等兵で思い出すのは、伴淳三郎、花菱アチャコの「二等兵物語」だ。ドタバタ喜劇の中にペースと戦争批判が入った映画のように記憶しています。小学生の時にはこの「二等兵物語」の歌を皆で唄っていた。

月が出たのに休めはまだか 若い班長が恨めしや  
何処で焼くのか 秋刀魚の臭い 風が吹くたび 腹が鳴る  
「ああ辛れえなあ 二等兵は辛れえや…」

戦争は決して良いものではないが、ひとつの見方によれば国民全体が「国体の護持」のために私欲を忘れ国益のために邁進する姿は、心情的な右翼であるうさおは「うん、うん」と同感しちゃいます。が、人から強制されるのが嫌いなうさおの性分は全体主義の中では浮き上がってしまい、非国民としてページされちゃうかもなあ…。







地図は大正8年のもの。国土地理院のサイトだったからかなあ？ちょっと拝借しました。黄色の枠の「御殿山台場」と「第四台場跡」は、そつとうさおが書き入れました。

そして今回私達がふらっと出かけたのは**第三台場**です。

毎度の解説ですが、この砲台群は観音崎、猿島、第一～第三海堡、富津砲台と繋げ





が埋まっているかもしれません。

江川太郎左衛門のおかげで、海堡や台場が数多く作られましたし、葦山には日本初の反射炉(製鉄炉)が出来ましたが(江川太郎左衛門は完成を見ることなく他界)、この方の先進的国防意識は報われることなく無用の長物、すなわちトマソンになったものです。

第三、第六台場は大正四年に東京市が払い下げを受け、第三台場が歴史公園として都民に公開されています。

た「帝都防衛ライン」の後方に配置されたもので、江川太郎左衛門が幕府に進言して、出来たもので、黒船の攻撃から江戸の町を守ろうとしました。

当初の構想としては十一カ所築造する予定でした。

第一から第三台場は嘉永六年八月に着工し、翌年安政元年四月に竣工しています。

神奈川台場と同様に、海中に石を落としこみ、堤防を作ってから土砂を均すようにして作られましたが、あの当時、工事運搬船も無く、石や土砂を正確な位置に工事ができたものです。

第五、第六台場は安政元年一月に着工し同年十一月に完成です。しかし、第四、第七台場は着工したものの財政難や日米和親条約の締結もあり、工事が中止しています。第四台場は、文久三年五月に工事が再開され翌年に完成し

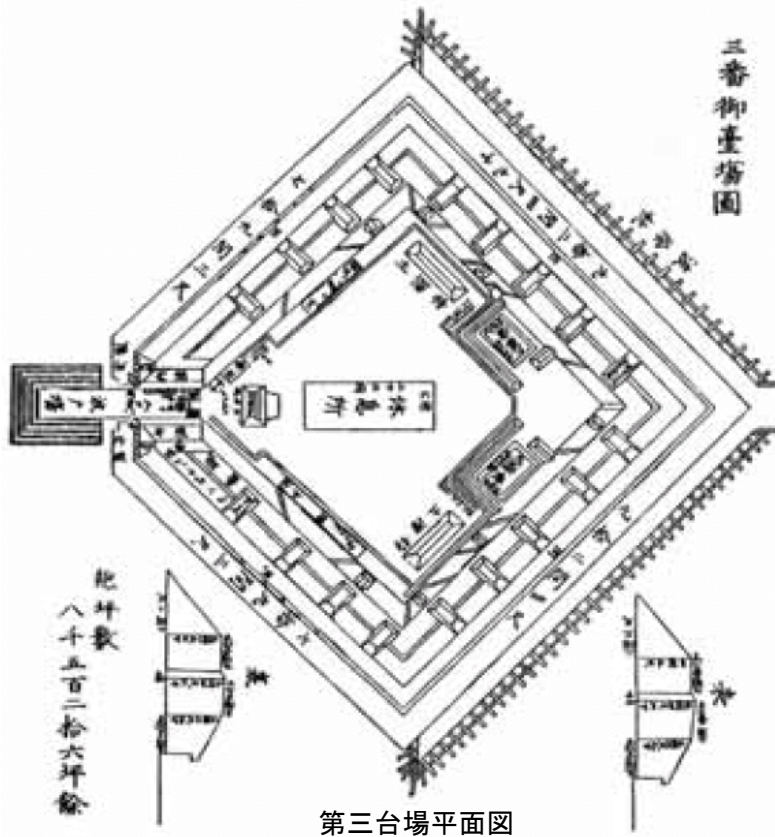
ています。

第八台場以降は鎖国政策の転換によって作られませんでした。

また、完成した台場は、あの帝都防衛ラインの海堡、砲台同様に、一度も使われることなく放棄されてしまいました。軍事基地として使われ始めたのは、明治から昭和にかけての軍国時代です。猿島や観音崎の整備工事のときに、大量の不発弾が出たそうなので、この台場にも不発弾



江川太郎左衛門



第三台場平面図

品川台場は、日本最初の大規模海上構造物で、西洋の軍事技術と日本の石積技術がコラボしたもので、貴重な土木遺産です。石垣から30間(54m)以内の水域も文化財の指定地域に含まれています。

第三台場の付近は湾内の防波堤事業の時に、人工海岸から陸続きで歩いていける様になりました。「鳥の島」も防波堤の名残です。

彼方にはフジテレビの特徴的な建物が見て取れます。

反対側はレインボー・ブリッジでこの海の水は意外に澄んでいて、石積が結構良く見えます。

このレインボー・ブリッジ

側に船着場があります。上の写真で爪楊枝のようなものが突き出ているのがそうです。

説明が重複しますが、この公園の案内板には、こう記してあります。

台場公園（第三台場）





いねえ」って怒られていますが、こういう時の時代感は持っています。

あっ・・・そういうのって感覚が古いって言うんですか？

さて、この斜面を降りていくと、そこには弾薬庫が二つあります。石積みとコンクリートの構造物ですが、



公園入口近くに玉薬置所(弾薬庫)の跡があります。

「お台場」の名で知られる品川台場は、江戸幕府が黒船来襲にそなえて品川沖に築いた砲台跡です。設計者は伊豆菰山の代官・江川太郎左衛門英龍で、ペリーが浦賀に来航した翌月の嘉永六年（1853）八月に着工、一年三ヶ月の間に六基が完成しました。

現在は大正十五年（1926）に国の史跡に指定された第三、第六台場だけが残されています。

このうち第三台場は、昭和三年東京市（都）によって整備され、台場公園として解放されています。周囲には、海面から五～七メートルの石垣積みの土手が築かれ、黒松が植えられています。また内側の平坦なくぼ地には、陣屋、弾薬庫跡などがあります。

#### 『品川台場跡案内板』

四周を取り巻く築堤の内側は、意外に低く、海拔0m?って思っちゃうくらい深い挿鉢状でへこんでいます。

実はこの台場の中にも、井戸や池があるのですが、まさか塩水?ってことは無いと思ってます・・・。

人工島にある井戸や水道(実は水道の跡もあります)って、何か不思議な気がします。すぐくりリッシュじゃないですか？

季節の無い町に生まれたいさおはいつも y u k o 宗匠に、「季節感が無





もうひとつの玉薬置所

とするとところじゃないよ。やはり住めないね。一人じゃ・・・草に埋もれては寝たのです・・・処かまわず寝たのです・・・っていうのは、里山が似合うようで（でも山は獣が怖いんだよね。野中の一軒家は稲川淳二が怖い話をしそうで嫌なんだよね）・・・海は・・・怖いなあ。

何時の時代のものでしょう。どう考えても江戸時代とは考えられません。明治か大正か？台場内には弾薬庫は5箇所にあります。

そんなに深いものではなく、中は六畳一間程度の広さです。この地が自分の家の敷地なら、ここに住んでみたいけど、大雨の時や台風、大潮の時には不安感一杯だろうね、それに、夜の海って言うのも、真っ暗でうさおの得意



▲第3台場遠景(大正末～昭和初期頃)



底の広場に並んでいる石は陣屋跡の礎石だ。土手の正面に弾薬庫跡がある。右手の森の中になんと池があるんだよ。

船着場からの撮影は、現在では出来ないのインターネット







ットから拝借しました。

要塞として機能していた時には、この船着場以外には島に出入りできなかったのだ。

食物や弾薬、医療、医薬品など多くの物品がここから運び込まれたのだろう。

この一角は井戸と台所と風呂場かな。水周りのものがここにあった様だ。トイレはどうしていたんだろう。一緒の場所だと、地下水に混じるようで井戸水を飲むのは嫌だな。

シュールに見える築堤までの上り道。

下の写真には変な竈の塔が建っています。これは現代に造られたもので当時は火薬庫でした。当時の大砲は火薬を詰めてから、砲丸を入れ点火し発射します。興味のある人は「隠し剣鬼の爪」をご覧ください。







ここがいきなり別天地のような池のある風景だ。緑色をした水が満々と満ちている。この水は海水？中に魚が住んでいるのか…？

島の北に位置するところ、ちょうど陣屋の裏庭に当たるところに、水道の跡と思しきものがある。もしかするとキャンプ場として開放されていたのかも…。



正体が判らない変な跡。コンクリートと、煉瓦と、ブロックで出来ている、何かの建物跡のように思える。日清、日露の戦争の時か、大東亜戦争の時か、そんなに古くは無いものと鑑定しました。(鑑定は由佳ちゃんちで失敗してるじゃん)





「鳥の島」すなわち貯木場の防波堤は、今ではすっかり緑に覆われた海鳥の巣窟になっています。ここはめったに上陸が許されず、昨年一度、ここに流れ着いた多量の生活ゴミを清掃するために、国土交通省関東地方整備局東京港湾事務所がボランティアに呼びかけて希望者を上陸させました。知らなかった。2007年8月23日のこと、うさおにも教えろっ。

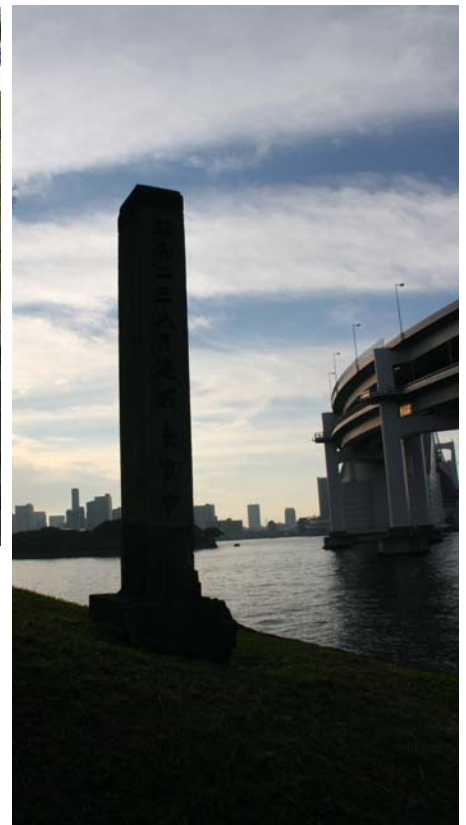


ここも上陸が許されていない、第六台場。自然のままにおかれている。海鳥の営巣は多く存在するであろうが、哺乳類は如何だろう。ねずみリスの類はいるだろうね。大型の狐や狸は餌がないので絶滅であろう。

っ言うと、大型の哺乳類としては人間がいるかもしれない。魚なんか獲っちゃってさ…。



船着場に繋がる掘割だ。潮が満ちると冠水するときもあるだろうなあ。時化の時には絶海の孤島だああ…。「絶海」ってなんだろう。大時化の時には暴風雨のため陸地が見えないから、「絶海」かな？って、違うの知ってるからね、この記念碑には「昭和2年8月建設 東京市」と味気ないことが書いてあるよ。







上の味気ないものは、当時の砲台をイメージしたコンクリートのレプリカ。大砲は折れて亡くなっているし、ペーパークラフトのようなチープさでがっかりです。



この大砲は品川海徳寺にあるもので、台場にあったものだととか、このようなものを是非飾って欲しいなあ。

またここ、台場小学校は御殿山台場の跡地に建てられた小学校。この学校の周りを巡ると、御殿山台場の敷地の形の通りになっているので、台場の規模が判ります。